第 175 号　　2021 年 1 月 31 日

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会
〒110-0016　東京都台東区台東１－１４－１１
ヒロキビル ヒロエンジニアリング(株)内
TEL（０３）５８１２－４１１１
FAX（０３）３８３３－６６７４
MAIL toukankyo@car.ocn.ne.jp
URL　http://www.toukankyo.org

★　新年挨拶

- 東京都環境計量協議会 会長　佐 藤　隆
- 東京都環境局　環境改善部長　筧　直　様
- 東京都生活文化局計量検定所 検査課長　柳下 幸永 様
- (一社) 日本環境測定分析協会 会長　松 村　徹 様

★　災害時における石綿モニタリング調査

★　事業活動アンケート調査の結果

★　関係機関・団体の動き

- 首都圏環境計量協議会連絡会
- (一社) 神奈川県環境計量協議会
- (一社) 埼玉県環境計量協議会
- 千葉県環境計量協会
- (一社) 日本環境測定分析協会

★　東環協からのお知らせ

- 2020 年度これからの主要行事予定

  「技術研修会」

  「新任者教育セミナー」

- 事務局からのお知らせ

新年のご挨拶

東京都環境計量協議会
会 長　佐 藤　隆

佐藤会長

皆様、新年明けましておめでとうございます。平素は当協議会に格別のご愛顧とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年中は、コロナ禍にあり年間事業の殆どが中止か延期となり、皆様には大変なご迷惑をお掛け致しました事、誠に申し訳ございません。そして、新年を迎えたこの時期においても新型コロナウイルスの感染は、都市部を中心に拡大しており、先頃、政府より 11 都府県に非常事態宣言が発令され、ますます終息の兆しが見えない情勢であります。このような中、今年度における当協議会の最大ニュースは、昨年 9 月 10 日に東京都と「災害時における石綿モニタリング調査に関する協定」を締結した事であります。これも偏に、石綿モニタリング調査機関のネットワークに指定登録頂きました会員 17 社のご協力の賜物と感謝申し上げます。現在、東京都環境局サイドにおいて有事の際における業務委託体制の整備を調整して頂いているところです。当協議会サイドとしては、委託体制が構築された際には指定登録機関による合同調査訓練などを実施していく予定であります。なお、同ネットワークへの加入は、随時募集しておりますので、気中および建材中の石綿分析を実施されている機関で未だ登録されていない機関がございましたら是非ご加入のご検討をお願い申し上げます。

我々の業務は、医療機関と同様にテレワークが難しいエッセンシャルワーカーと呼ばれる専門技術スキルと専門知識が重要な職種です。そのため、毎年実施しております「技術研修会」と「新任者教育セミナー」については環境計量業務を担う若手の育成に大変重要な教育事業であると、当協議会では位置付けております。そこで、今回はコロナ禍のために延期しておりました両事業については、リモート形式により今年度中に開催すべく企画しているところです。従いまして、準備が整い次第ご案内致しますので、是非多数のご参加をお願い申し上げます。

最後に、会員企業の技術系スタッフの皆様に於かれましては、先に述べましたエッセンシャルワーカーとして昨年 4 月の緊急事態宣言以前より、感染リスク対策としてマスク着用、検温やアルコール消毒を実施した上で、遮蔽板等が設置された試験室や居室等において 3 密を避けながら日々の業務を熟し続けていると推察致します。こうした不自由な環境下での業務は、大変神経を擦り減らし、ストレスが蓄積される心労業務とも言えます。そうした時、さまざまなストレス解消法を実践されていると存じますが、同時にどうか皆様は個々ではなく、同じ境遇で切磋琢磨している業界の仲間が大勢いる事を思い浮かべて頂き、皆で環境計量事業及び環境分析測定事業に貢献している自負を強く持って日々挑み続けて頂くことをお願いし、新年のご挨拶とさせて頂きます。

新春のご挨拶

東京都環境局　環境改善部
部 長　筧　　直　様

筧 環境改善部長

新年おめでとうございます。

日頃より、東京都の環境行政に格別の御理解と御協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、都は、都民や事業者の皆様とともに感染症対策に取り組んでまいりました。年が明けた今、その対策は正念場を迎えております。

こうした状況の中、コロナ禍で社会経済活動が停滞し、人々との繋がりも分断されるなど、都民生活は様々な制約を受けることになりました。快適で活気溢れる都市東京を取り戻すためには、環境、経済、人々や企業の意識・行動様式など、社会全体の様々な側面で持続可能な復興を目指す「サステナブル・リカバリー」を推進する必要があります。

都は昨年、PM2.5について全ての大気測定局で環境基準を達成したことを受け、大気環境のさらなる改善を目指して、世界で最も厳しいWHOの指標である10μg/m^{3}以下を2030年度までに達成する目標を掲げ、取り組むこととしました。今後、自動車環境対策やVOC削減対策などの施策を加速し、世界最高水準の大気環境を実現することで、環境面から持続可能な東京の復興を進めてまいります。

また、昨年 9 月には、貴協議会と都の間で「災害時における石綿モニタリングに関する協定」を締結する運びとなりました。改めて、佐藤会長をはじめ会員の皆様の御尽力に感謝申し上げます。今後、会員の皆様の御協力のもと、災害時に迅速に石綿モニタリングを実施することは、被災現場における住民や作業される方々の安全・安心に大いに貢献するものと期待しております。本協定を契機として、都内の関係自治体や業界団体の皆様との連携強化に一層取り組んでまいります。

東京の環境施策を着実に進め、五十年、百年先も安心して暮らすことができる都市環境を創り上げていくためには、高い信頼性に基づく環境技術が不可欠であります。東京都環境計量協議会及び会員の皆様におかれましては、これまで培われた優れた環境測定・分析技術を活かし、東京都の環境行政に更なる協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

今夏は、延期となった東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定です。本大会とその先を見据え、東京で暮らし、働き、訪れる誰もが快適に過ごすことのできる環境先進都市を目指してまいりますので、重ねて御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして良い年でありますよう、益々の御発展と御多幸を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

新年に寄せて

東京都計量検定所　検査課
課 長　柳下 幸永　様

柳下 検査課長

新年明けましておめでとうございます。

平素は東京都の環境計量行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今日、東京都の施策の中でも、とりわけ環境への取組について、都民の関心が高まっています。特に安心・安全に係る課題への対応について、信頼性の担保が強く求められているように思います。そのような中、昨年 9 月、貴協議会の災害時の石綿飛散防止を目的とした、「災害時における石綿モニタリング調査に関する協定」を都と締結したニュースが大きく取り上げられました。貴協議会会則の一つ「安全・安心な社会の構築に貢献する」という高い理念を実現する取組として評価されるものでした。

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大は、社会のシステム、人々の生活に大きな影響を及ぼし、外出自粛等で人との接触機会が低減したことにより、働き方にも大きな変革が求められています。毎年、11 月 1 日の計量記念日に新宿駅西口広場で開催しておりました「都民計量のひろば」も昨年はやむなく中止といたしました。そのため、web 版「都民計量のひろば 2020」特設ページを開設立上げることにしましたところ、貴協議会から、「環境と計量コーナー」の出展、運営に例年と変わらぬ多大なるご協力をいただきました。コンテンツの充実により、多くのお客さまにアクセスいただき、計量思想の普及・啓発を図ることができましたこと、この場をお借りしまして、厚く感謝申し上げます。

安定した社会・経済基盤を支えている計量技術・制度を、現在及び将来に対しても実効的・持続的に提供していくためには、国、地方自治体だけでなく、計量関係団体・企業等、関係の皆さま方との連携・協力が不可欠であることは言うまでもありません。

今後とも、東京都計量検定所の業務につきまして一層のご支援をいただくとともに、適正な計量を通じて環境計量技術の発展に向け、お力を発揮してくださいますようお願い申し上げます。

最後に、東京都環境計量協議会の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念し、年頭のごあいさつとさせていただきます。

新春のご挨拶

一般社団法人日本環境測定分析協会
会 長　松 村　徹　様

松村会長

一般社団法人日本環境測定分析協会会長の松村徹でございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

東京都環境計量協議会の皆様におかれましては、日頃、日環協の活動に多大なるご支援を頂いております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

昨年のご挨拶の折、オランダ協会の 110 周年記念(設立 1910 年)のお話をさせて頂きました。予想より COVID-19 の影響が長引き、本年 1 月に予定されておりました年会も延期となりました(開催期日未定です)。現地ラボツアー『How to survive?(いかにして生き残るか？)』への参加をご予定頂いておりました皆様、もうしばらくお待ちいただけますでしょうか。

さて、我々のまわりで、COVID-19 によって大きく変わったのは、会議ではないでしょうか？我々のビジネスでは、実際の分析作業を在宅リモートで実施することはなかなか困難ですので、最も目につく変革は Web 会議の浸透であったような気がします。ところが、国外では大型のオフィシャルな会議は別として、日常の会議についてはこれまでも普通に Web 会議だったので、このような『変革』の感覚はあまりないようです。日環協で所属している国際民間試験所連合(UILI)でも Web 会議システムこそ二度程変わりましたが、10 年程前からは、『思い立った時に』、といった感覚で普通に Web 会議を実施しています。今回の件からも、『何かが起きたら対応する/何かが起きなければ実施しない日本』というセンテンスを思い起こす次第です。

ところで、オランダ協会の正式名称は、『Vereniging van Raadgevend Scheikundige Laboratoria,略称:VRS』です。日本語にすると『コンサルティング化学試験所協会』といったところだと思います(VRS では、英語訳として『Association of Consultative Chemical Laboratories』をあてています) 。ご存じの方も多いかと思いますが、オランダは、古くから毒性化学物質の世界の中心として知られており、世界で最も歴史のある測定分析協会が存在していることも頷けますが、協会名にある『Raadgevend』の意味は、『お客様とお話をしながら、商品のご提案やアドバイスをする』だそうで、これが、歴史が長いだけでない、存続できている理由、しいては『How to survive?』の基本なのかも知れません。

東環協の会員の皆様と共に、まずは 110 年を目指して頑張りたいと思います！

本年もご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

災害時における石綿モニタリング調査

既報第 174 号の続編記事となりますが、昨年 9 月に東京都と当協議会とで「災害時における石綿モニタリングに関する協定」の締結を行った際の調印式の様子と、我々よりも先に災害防止協定を締結している埼玉県と(一社)埼玉県環境計量協議会（埼環協）とで実施されている指定登録機関による合同調査訓練の様子を視察させて頂きましたので報告致します。

１．締結式について

2020 年 9 月 10 日 11：00 より都庁第二庁舎環境局長室において首記に関する締結式が実施されました。東京都より栗岡環境局長、筧環境改善部長、内藤大気保全課長が、当協議会より佐藤会長、竹田副会長、五十嵐副会長、平賀理事が出席致しました。11 時に栗岡局長のご挨拶により締結式が開始されましたが、冒頭、栗岡局長からは、東京都において大規模災害が発生した場合、被災建物やそれらの廃棄物から飛散する恐れがある石綿リスクについて、今回の協定により迅速に状況把握できる重要性と安全対策への貢献性などの意義についてご説明頂きました。次いで、佐藤会長より当協議会の発足目的と歴史、また本協定を礎として、今後の災害防止協定等に関する東京都との連携の重要性などについて説明がなされました。

その後、本協定書に関する簡単な内容確認と署名の確認を行った後、記念撮影を行い調印式は閉会となりました。

調印式

記念撮影

そして、この調印後、9 月～12 月の間に東京都環境局と 4 回に亘り意見交換会を実施しております。現状、東京都サイドにおいては、有事の際における業務委託の体制化について各部局と調整中との事です。当協議会としては、こうした業務委託体制の骨子が固まり

次第、指定機関のネットワークを構築する組織体制を整備していく所存でおります。

最後に、東環協ニュース第 174 号でも紹介しましたが、現状の指定機関の一覧を掲載させて頂きます。

災害時における石綿モニタリング調査指定機関一覧（50 音順）

- いであ(株)
- (株)オオスミ
- (株)環境技研
- (株)環境総合リサーチ
- (株)総合水研究所
- (一財)東海技術センター
- (株)日新環境調査センター
- ヒロエンジニアリング(株)
- ユーロフィン日本環境(株)
- (株)伊藤公害調査研究所
- (株)環境管理センター
- (株)環境技術研究所
- 環境リサーチ(株)
- 帝人エコ・サイエンス(株)
- (株)東京環境測定センター
- (株)日本総合科学
- (株)分析センター

2．埼玉県と埼環協による合同調査訓練を視察して（記：佐藤　隆）

大規模災害時における石綿モニタリング調査は、災害が沈静化した後の復興作業において、安全対策を講じる上で極めて緊急性が問われます。そのため、当然の事ではありますがネットワーク機関の全てより環境省マニュアルに沿った適切性・妥当性・有効性の高いデータが得られる事が重要となります。しかしながら、化学量は物理量と異なり、直接的な基準物質が少ないために標準手順書（SOPs）の構築や現場作業における測定点の決め方といったノウハウをネットワーク機関で共通することが大切です。今回、埼玉県と埼環協が年一回のペースで実施されている合同調査訓練の 1 日目を視察する機会が得られたので、その状況を紹介させて頂きます。

（1）日時、訓練場所

日　時：2020 年 12 月 22 日　10：30～14：00

場　所：越谷合同庁舎（越谷市越谷 4-2-82）

（2）訓練内容

・合同庁舎内越谷建築安全センター建物が倒壊した想定で大気中の石綿濃度に係る模擬訓練。

（3）訓練参加機関

・埼玉県環境科学国際センター　・(一社)埼玉県環境検査研究協会　・東邦化研(株)

・(株)環境管理センター　・エヌエス環境(株)　・(株)伊藤公害研究所

（４）訓練次第

10：30　現地集合　参加者紹介

10：35　現地打合せ開始（風向（北西）、測定場所、測定箇所（6 機関）の確認）

10：40　各測定箇所に移動

10：55　サンプリング開始（ポンプ ON）120 分（コロナ禍なので時間短縮）

11：00～11：15　県内における石綿保管倉庫の撤去事例を紹介（越谷市、吉川市）

14：00　サンプリング終了　解散

（５）所　見

今回参加された 6 機関のスタッフの方々は、機材をセットしてサンプリングが開始されますと、お互いの使用機器や機材類について見学・情報交換されたり、強風対策など具体的な工夫状況を積極的に意見交換されてました。こうした点は、共通の精度管理に大変有益な事であるため、是非、当協議会においても合同訓練を通じて指定機関による交流を深め、精度管理の向上を図りたいと思います。

【謝辞】

この度、このような視察の機会を与えて頂きました埼玉県環境部 大気環境課 規制担当主査 原口靖史様、一般社団法人埼玉県環境計量協議会 会長 吉田裕之様、同 理事 野口裕司様に深く感謝申し上げます。

埼玉県と埼環協による合同調査訓練状況

参加者の紹介

測定箇所を決める打合せ

サンプリング準備の状況

サンプリングの開始

埼玉県環境科学国際センター
によるサンプリング状況

(一社)埼玉県環境検査研究協会
によるサンプリング状況

東邦化研(株)
によるサンプリング状況

(株)環境管理センター
によるサンプリング状況

エヌエス環境(株)
によるサンプリング状況

(株)伊藤公害研究所
によるサンプリング状況

事業活動アンケート調査の結果

2020 年 10 月から 11 月にかけて東京都環境計量協議会の活動に関するアンケートを行い、会員企業様 84 社のうち 41 社（正会員 32 社、賛助会員 9 社）からご回答を頂きました。お忙しい中、回答のご協力を頂きました皆様に心から感謝申し上げます。

つきましては、以下のとおりアンケート結果を報告致します。なお、グラフ中に記載されている数値は回答数を示しています。また、（自由意見）欄のコメントは原文のまま掲載しております。

Q1. 協議会での会員区分をお答えください［いずれか１つに回答］

ア．正会員　⇒　回答：32 社

イ．賛助会員　⇒　回答： 9 社

Q2. 新任者教育セミナーについて

(1) 科目について［いずれか１つに回答］　（以下、正：正会員、賛：賛助会員）

ア．現状科目でよい（労働安全衛生、環境計量の仕事とは、精度良い測定）

⇒　回答：34 社（正：30 社、賛：4 社）

イ．現状科目に加え、新たな科目を追加してもらいたい

⇒　回答： 3 社（正： 1 社、賛：2 社）

追加希望科目　・水の基礎や分析に必要な超純水

・純水について

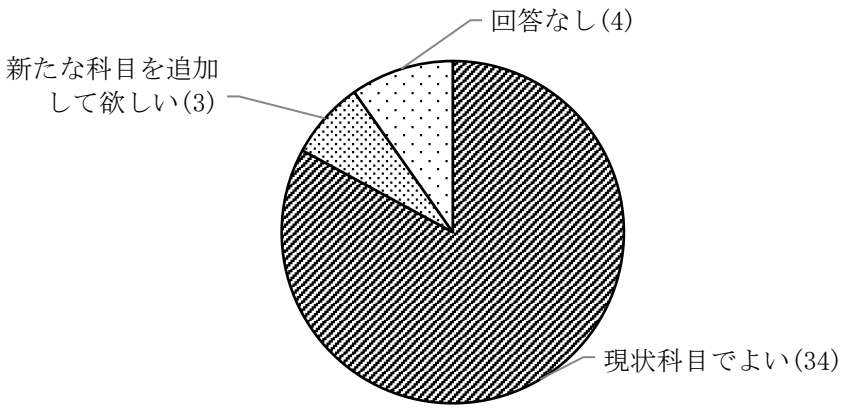
・社会人としてのビジネスマナーなど

ウ．科目を一新してほしい　⇒　回答： 0 社

エ．科目を減らしてほしい　⇒　回答： 0 社

オ．セミナー自体の必要性を感じない　⇒　回答： 0 社

新任者教育セミナーの科目



(2) 講義時間について［いずれか１つに回答］

ア．現状のままでよい（1 日間研修）　⇒　回答：37 社（正：30 社、賛：7 社）

イ．講習時間を延長してほしい（2 日間研修や 3 日間研修）

⇒　回答：1 社（正：　1 社、賛：0 社）

ウ．その他　⇒　回答：0 社

(3) 開催方法について［いずれか１つに回答］

ア．現状のままでよい（集合研修）　⇒　回答：20 社（正：18 社、賛：2 社）

イ．科目毎の WEB セミナー　⇒　回答：18 社（正：13 社、賛：5 社）

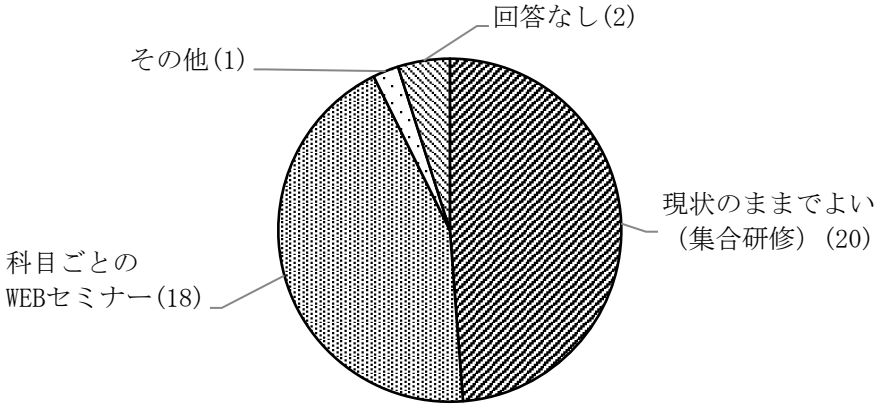
ウ．その他　⇒　回答：　1 社（正：　1 社、賛：0 社）

（自由意見）

・基本は集合が良いがコロナの状況によって WEB も検討するような感じが良い。

・集合研修と WEB セミナーを両方で運用。

新任者教育セミナーの開催方法



(4) ご意見、ご提案

その他、新任者教育セミナーに関してご意見、ご提案があればお聞かせください。

（自由意見）

・集合研修は多数の方と会う機会があり良いと思いますが、現在のコロナ禍では難しいのではないでしょうか。

・近年の新任者は社会人（勤労者）としての自覚・心構えが不足気味であると感じられるので、従来からの環境計量講義（労働安全衛生、環境計量とは、精度管理）に加えてビジネスマナーに関する講義を追加してほしい。

・毎年、新入社員には必ず参加させており、今後も継続していければと思います。

・新任者教育に限りませんが、講師の許諾が得られるのであれば動画等を撮影し、東環協のホームページ等で閲覧できる様にしたら如何でしょうか？また間口を広げて YouTube 等で見れるようにするなど。アクセス数を伸ばすには相当な工夫が要りますが、東環協や計量証明事業自体の宣伝にもなるのではないでしょうか。
・どの科目も重要ですが､1 日で 3 科目は時間が足りなく駆け足になっている印象です。2 日間講習とするか、科目毎の WEB セミナーがよろしいかと・・

新任者教育セミナーの科目や講義時間については現状通りでよいというご意見が多い一方、追加の御要望等も頂きました。また、開催方法は従来の集合研修と WEB 形式それぞれを推すご意見がありましたので、今後の開催の検討に役立てて参りたいと存じます。

Q3. 研修見学会について

(1) 開催方式について［いずれか１つに回答］

ア. 現状のままでよい（首都圏合同開催）　⇒　回答：33 社（正：25 社、賛：8 社）
イ. 東環協単独での開催　⇒　回答： 0 社
ウ. 研修見学会自体の必要性を感じない　⇒　回答： 4 社（正： 4 社、賛：0 社）

(2) ご意見、ご提案

その他、研修見学会に関してご意見、ご提案があればお聞かせください。特に、希望見学先、今までと異なる形での研修などについてご意見があれば記入してください。

（自由意見）

・会食もプログラム中にあったかと思いますが、現段階では見直したほうがいいかと思います。
・コロナ禍では今迄通りでは難しいかもしれません。
・開催日が平日の業務時間内であるため、単なる施設見学や交流のみでは若手を派遣させる事に抵抗がある。参加させる有意義な研修でなければ同企画の意図が伝わらないと感じられる。
・セミナー等がＷＥＢ化するのであれば、会員が一堂に会する機会はこのようなイベントしかない。
・コロナの状況次第ですが、許されるなら 1 箇所に集まっての開催を希望します。
・昔は泊まりだった気がします。非常にコミュニケーションが取れて有意義だったのですが。

研修見学会について頂いた様々なご意見を今後の開催方式の検討に役立てて参りたいと存じます。

Q4. 環境測定技術事例発表会について

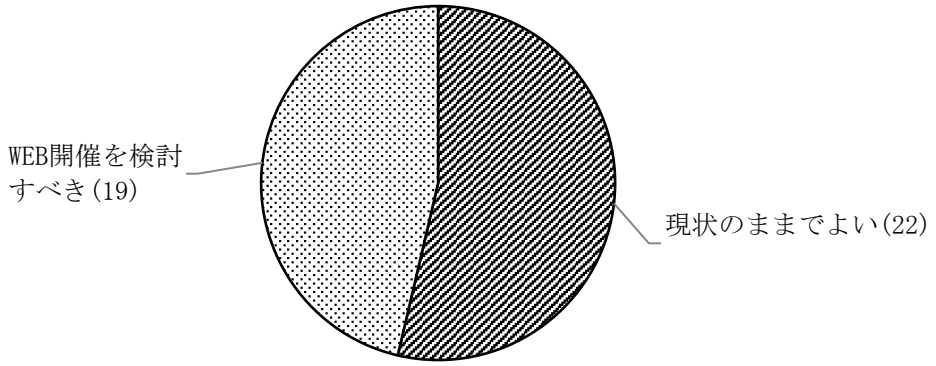
(1) 開催方式について［いずれか１つに回答］

ア．現状のままでよい　⇒　回答：22 社（正：20 社、賛：2 社）

イ．WEB 開催を検討すべき　⇒　回答：19 社（正：12 社、賛：7 社）

ウ．発表会自体の必要性を感じない　⇒　回答： 0 社

環境測定技術事例発表会の開催方式



(2) 発表会の構成について［いずれか１つに回答］

ア．現状のままでよい（特別講演、事例発表、交流発表、協賛企業プレゼン）
⇒　回答：35 社（正：27 社、賛：8 社）

イ．構成を変えたほうがよい　⇒　回答： 2 社（正： 1 社、賛：1 社）

ウ．発表形式の再考　⇒　回答： 0 社

(3) ご意見、ご提案

その他、環境測定技術事例発表会に関してご意見、ご提案があればお聞かせください。

（自由意見）

・環境測定技術だけでなく当業界におけるテーマを広く募集できるようにしてはどうか。

・WEB 開催も必要性を認識しているが、現場で実体験する研修の方が、質問の応答など優ると感じます。コロナ対策をしっかり行い、演者様はアクリル板で仕切るなどの工夫で運営して下さるとよいと思います。希望者は WEB か現地か選べるのも一案ではないかと思います。

・コロナ禍では集まることは難しいかもしれません。

・発表者を増やせるようにミニ発表(５分程度)の事例を募集しても良いのではと思う。大環協だけでなく近県の会員(千環協、神環協、埼環協)とも交流が出来たら良いと思う。事業者の都合もあるが、なるべく多くの方に発表を行って欲しい。

・個人的には現状の形式で、若い人たちに参加者の目の前で度胸をつける OJT の機会であってほしいと願う。

・今年は、web などオンラインでの実施を希望いたします。準備などございますので、今年の開催が難しいのも理解いたします。
・LIVE 配信も同時に行うのは如何でしょうか？また併せて講師の許諾が得られるのであれば動画等を撮影し､東環協のホームページ等で閲覧できる様にしたら如何でしょうか？また間口を広げて YouTube 等で見れるようにするなど。最終的には若い方に会場に来て、横のつながり作り、仕事にも業界にも魅力と愛着を持ってもらう。
・汎用性のある事例発表を希望します。現状は、発表各社の独自技術の紹介になっている感がある。
・コロナ関連で色々とあるかと思いますが、賛助会員としては、ちょうど良い規模で、良いピーアールの場となるため、集会形式で続いていくことを望みます。

環境測定技術事例発表会は、新任者教育セミナーと同じく開催方式については従来の集合研修と WEB 形式セミナーそれぞれを推すご意見がありました。また、若い職員の発表の訓練や交流の機会としての活用というご意見も頂きましたので、今後の開催の検討に役立てて参りたいと存じます。

Q5. 技術研修会について

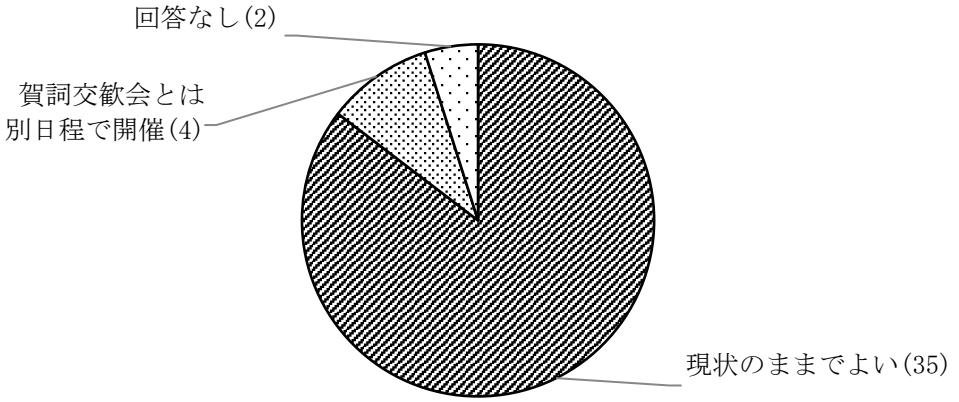
(1) 開催方式について［いずれか１つに回答］

ア. 現状のままでよい（賀詞交歓会の前に講演会として開催）
⇒ 回答：35 社（正：28 社、賛：7 社）

イ. 単独で開催すべき（賀詞交歓会とは別日程で開催）
⇒ 回答： 4 社（正： 3 社、賛：1 社）

ウ. 技術研修会自体の必要性を感じない ⇒ 回答： 0 社

技術研修会の開催方式



(2) ご意見、ご提案

その他、技術研修会に関してご意見、ご提案があればお聞かせください。特に、講演希望テーマなどがありましたら記入してください。

（自由意見）

・マイクロプラスチックの海洋汚染が問題視され注目されていますが、最新の動向や業界の取り組み、分析方法の開発などが気になっております。
・環境問題の動向や最近の規制事例などの講演が聞きたい。実務的なテーマ(例えば法令関連や分析技術)で実施して欲しい。
・会員数の割にいつも参加者が少ないと思われるので、このような形式でよい。
・今年度に限っては、コロナの状況を鑑みて技術研修会の開催は見合わせ、賀詞交歓会のみの開催で良いと思います（それもコロナの状況次第ですが)。
・分野や内容は幅広いほうが興味わくと思う。例えば、はやぶさⅡとか、ウイルスと免疫とか、DX など。
・コロナ禍での現状の環境分析に求められることなどのお話が聞きたいです。
・講師の許諾が得られるのであれば動画等を撮影し、東環協のホームページ等で閲覧できる様にしたら如何でしょうか？また間口を広げて YouTube 等で見れるようにするなど。

技術研修会の開催方式については全体としては賀詞交歓会の前に講演会として実施する従来通りでよいというご意見が多く寄せられました。講演テーマ等については頂いたご意見を参考にさせて頂きます。

Q6. 親睦活動について

東環協では、親睦活動としてゴルフコンペ［春季、秋季］を開催しています。今後の親睦活動はどうあるべきだと思いますか。なお、他の県単ではソフトボール大会やボウリング大会、地曳網・BBQ 大会などが開催されています。

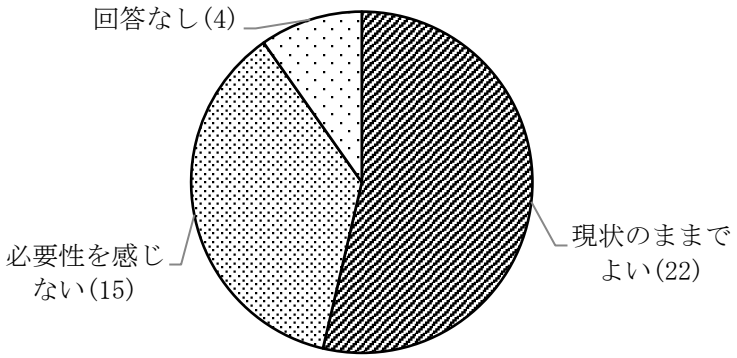
(1) ゴルフコンペについて［いずれか１つに回答］

ア．現状のままでよい（ゴルフコンペ［春季、秋季])

⇒ 回答：22 社（正：16 社、賛：6 社)

イ．ゴルフコンペ自体の必要性を感じない ⇒ 回答：15 社（正：14 社、賛：1 社)

ゴルフコンペについて



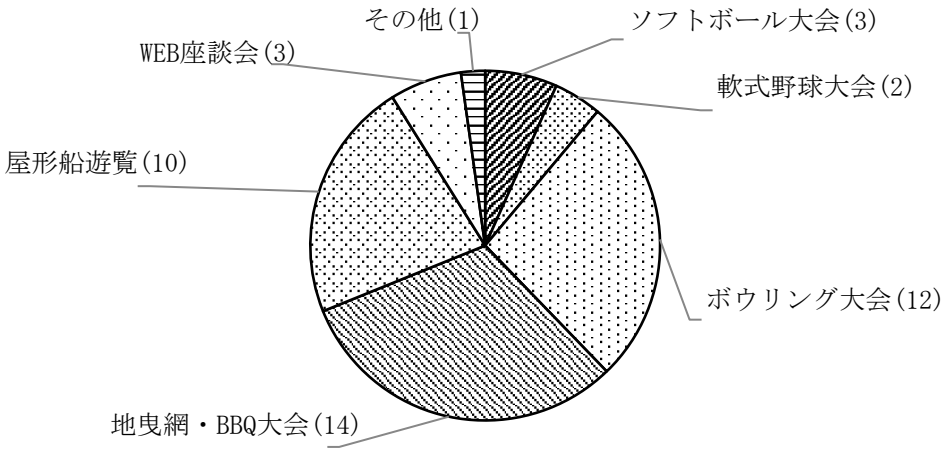
(2) ゴルフコンペ以外の親睦活動について［複数回答可］

ア．ソフトボール大会　⇒　回答： 3社（正： 3社、賛：0社）
イ．軟式野球大会　⇒　回答： 2社（正： 2社、賛：0社）
ウ．ボウリング大会　⇒　回答：12社（正：10社、賛：2社）
エ．地曳網・BBQ大会　⇒　回答：14社（正：11社、賛：3社）
オ．屋形船遊覧　⇒　回答：10社（正： 9社、賛：1社）
カ．WEB座談会　⇒　回答： 3社（正： 3社、賛：0社）
キ．その他　⇒　回答： 1社（正： 1社、賛：0社）

（自由意見）

・ゴルフコンペ以外は特に必要無いと考えます。
・老若男女問わず皆が気軽に参加しやすく懇親を深められる会。
・環境に関わるボランティア活動（植林や清掃など）

ゴルフコンペ以外の親睦活動



(3) ご意見、ご提案

その他、親睦活動に関してご意見、ご提案があればお聞かせください。

（自由意見）

・若手世代も参加しやすく屋外開催の BBQ 大会などはコロナのリスクも少なくて良いと思います。地引網の後にビーチクリーンアップも行って環境保全活動もやるなどであれば、社会貢献活動の意欲も高まるかもしれません。

・ゴルフコンペの参加希望者が毎回少なく、メンバーも固定されているため新規の若手参加者を増やす工夫が必要かと思う。ゴルフコンペは、特定の人のみの参加となっているため親睦活動と感じられない。不特定多数の参加型親睦会は何かしら開催した方が良いと思う。

・誰でも参加しやすく、コンパクトな場所で盛り上がるという点で、ボウリング大会と懇親会の組合せなどは手頃なイベントになるかと思います。

・ゴルフは継続しつつ、他に家族で参加できるものがあると良いのではと思います。

・ゴルフ以外にも若い人が楽しめる内容があると良いかと思います。

親睦会については様々なご意見を頂きましたので今後の開催の参考にさせて頂きます。

Q7.「災害時における石綿モニタリング調査」ネットワークについて

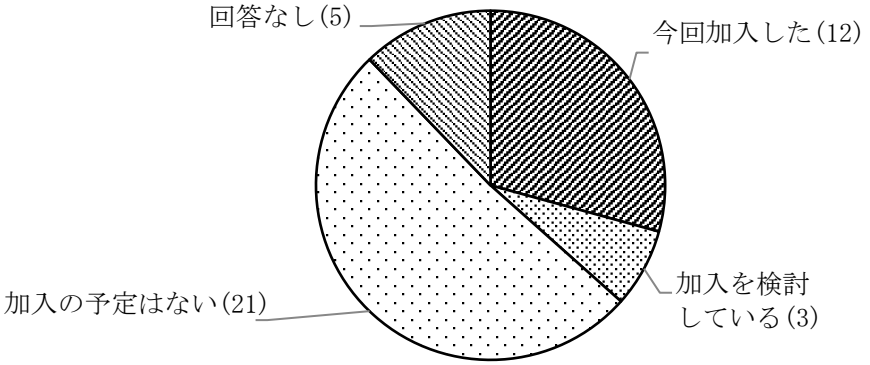
(1) ネットワーク加入状況について［いずれか１つに回答］

ア．今回、加入した　⇒　回答：12 社（正：12 社、賛：0 社）

イ．現在、加入を検討している　⇒　回答： 3 社（正： 3 社、賛：0 社）

ウ．今後も加入の予定はない　⇒　回答：21 社（正：15 社、賛：6 社）

ネットワークへの加入状況



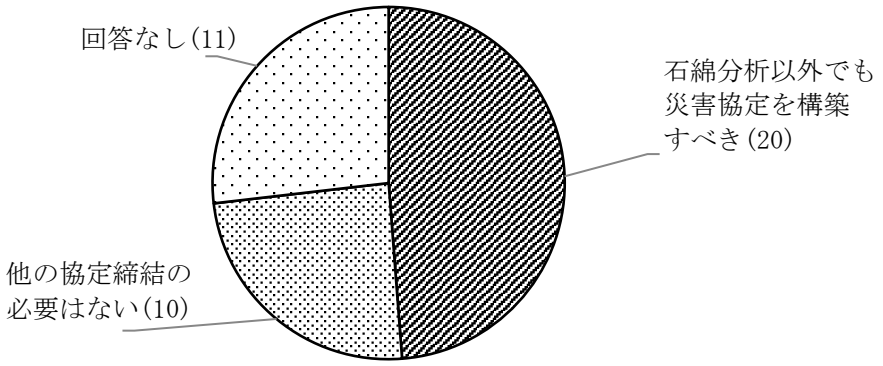
(2) 石綿以外についての災害協定について［いずれか１つに回答］

ア．石綿分析以外でも災害協定を構築すべき（ただし、環境局との協議が必要）

⇒　回答：20 社（正：18 社、賛：2 社）

イ．他の協定締結の必要はない　⇒　回答：10 社（正： 9 社、賛：1 社）

石綿以外の災害協定について



(3) ご意見、ご提案

その他、災害協定に関して、ご意見、ご提案があればお聞かせください。ネットワークを構築する上で希望する点などあれば併せてご記入をお願いします。

（自由意見）

・若手、中堅の集まりやすい雰囲気づくりが必要。

・他の都道府県で石綿以外について締結しているものがあるなら、ご教授下さい。

・神環協が神奈川県等と「大規模災害時における有害化学物質等の調査に関する協定」(大気の汚染又は水質の汚濁の原因となる物質、人の健康や生活環境に悪影響を及ぼす物質の調査)を結んでいるので、石綿以外の協定を構築できるのではないか。

・昨年の東北地方の河川洪水により、ある試験機関が被災した際に分析業務の支援を行ないました。外部委託という形態での支援ですが、試験受託費用を原価程度に抑える事で被災事業者が原価増にならないようにしました。しかし、支援の長期化や繁忙期の支援が厳しい状況も発生したため、単独での支援は難しいことを痛感しました。協会内に支援窓口を設置して支援ネットワークがあれば救われる事業者が多くなるのではないかと思います。

・営利目的という意味ではあまり関心はないのですが、災害時にお役に立てることがある場合に声をかけてもらえるネットワークがあると嬉しいです。

災害協定については社会貢献という面から様々なご意見を頂きました。今後の活動に役立てるとともにネットワークをさらに広げるべく、PR に努めて参りたいと存じます。

Q8. 新規の事業活動について

他の県単では、次のような活動が行われています。東環協でも希望する活動があればお答えください。[複数回答可]

ア．技能試験（現状は、大環協の共同実験に参画させてもらっている）

⇒　回答： 9 社（正： 7 社、賛：2 社）

イ．船上研修会（船上サンプリング法の研修会など）

⇒　回答： 4 社（正： 4 社、賛：0 社）

ウ．環境計量士取得のための勉強会（希望者を募り、学科ごとに講習会を開設）

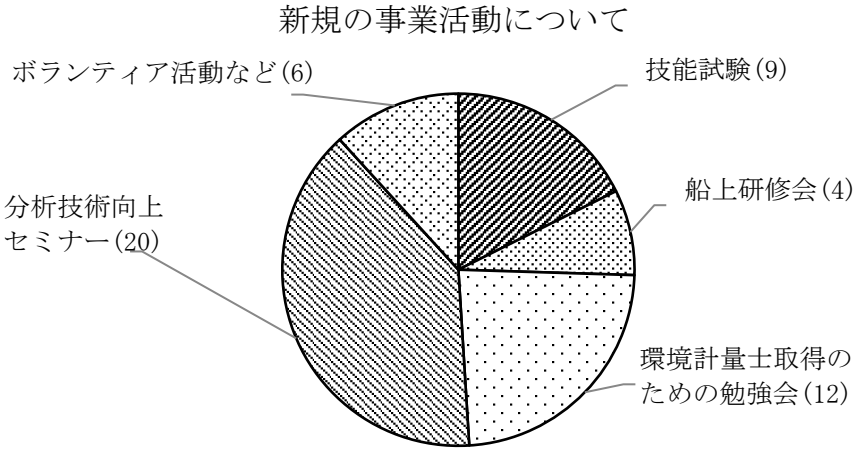
⇒　回答：12 社（正： 9 社、賛：3 社）

エ．分析技術向上セミナー（テーマごとに専任講義を開設）

⇒　回答：20 社（正：15 社、賛：5 社）

オ．ボランティア活動など（美化運動・各種の支援活動による社会貢献運動）

⇒　回答： 6 社（正： 5 社、賛：1 社）



カ．その他、希望する活動や関連するご意見等あれば、以下にご記入ください。

（自由意見）

・学校や地域への出張講義（仮）

・賛助会員のミニ分析機器展を単独で開催してほしいと思います。事例発表会と同時だとメーカー担当の方とお話しする時間も短く展示規模も小さいので様々な機器を見ることが難しいと思います。

・サンプリングに関する研修会の実施する必要があると考えます。

・分析、採取現場の技術情報の提供や人的交流ができると良いと思います。

新規の事業活動についても様々なご意見を頂きましたので今後の参考にさせて頂きます。

Q9. 当協議会に対するご意見等がございましたらお聞かせください。

（自由意見）

・東環協へ入会していることによる有意性を考えて行く必要が有ると考えます。官庁入札参加の優先的な参加条件（指名参加登録項目等への反映）等が考えられます。

・東環協様の発行されるニュースは写真や活動説明が詳細で資料として役立っています。こういったアンケートなど、Google フォーム等使用されると集計が楽になるのではないでしょうか。

・賛助会員の地位向上（総会における議決権及び役員就任資格の付与）

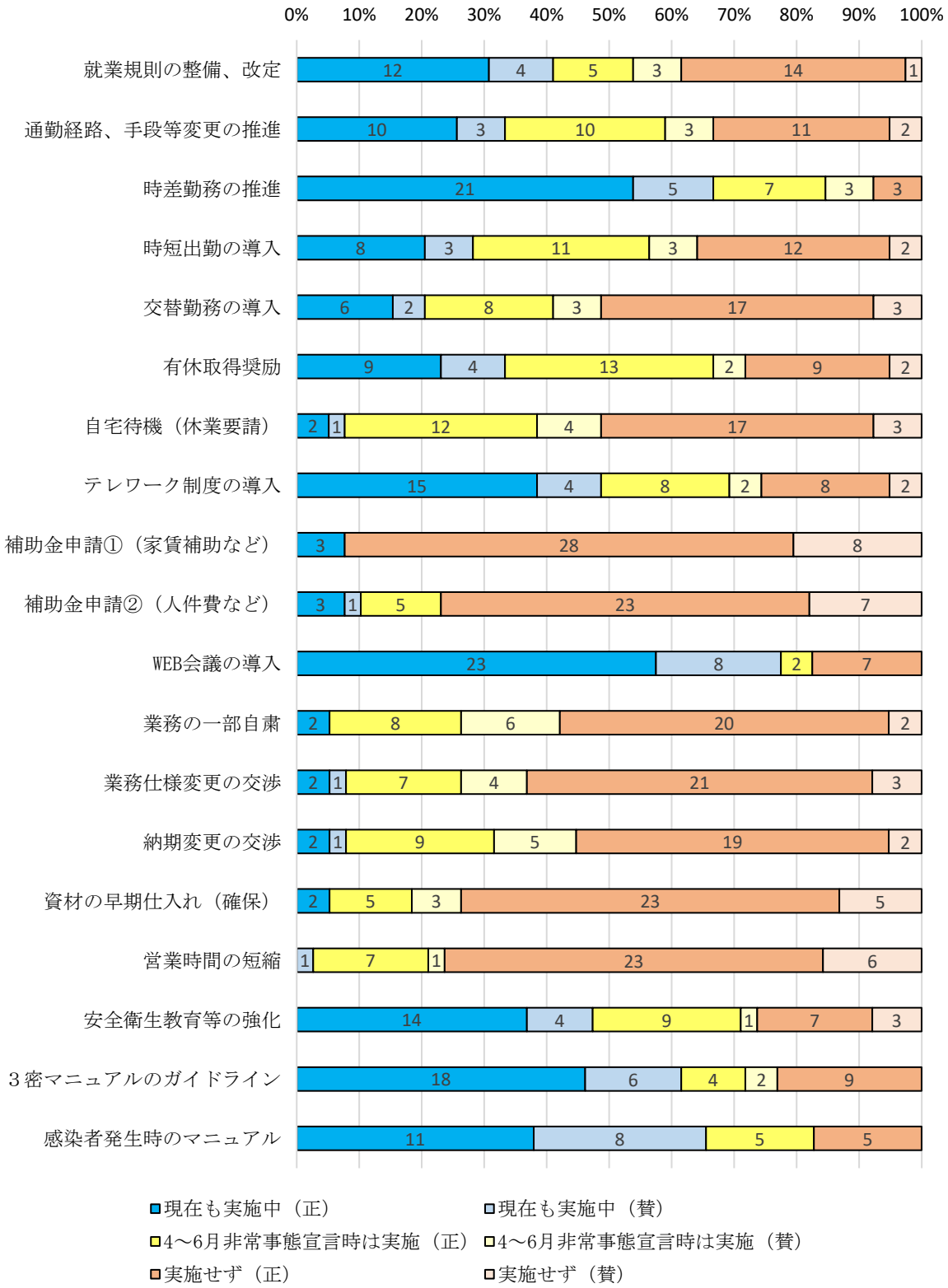
ご意見を有難うございました。今後の参考にさせて頂きます。

Q10. コロナ禍における御社の対応について

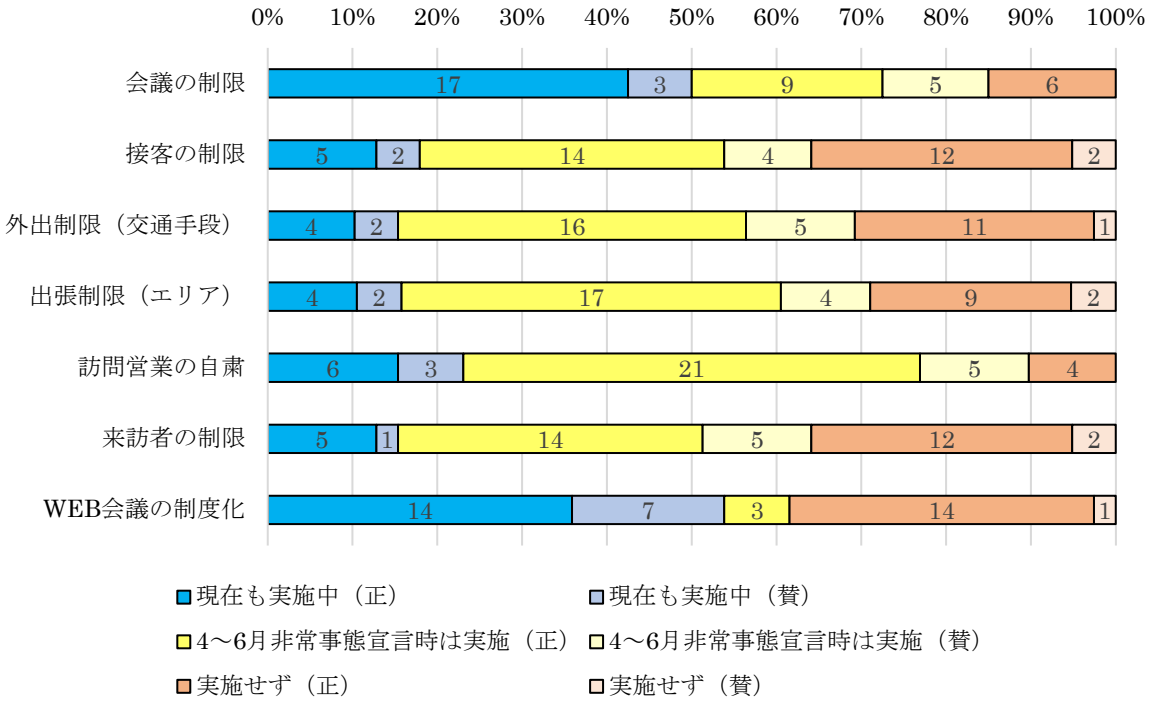
頂いた回答を基に項目ごとの実施率を次頁以降に図示しました。

時差勤務の推進やテレワーク・WEB 会議の導入、消毒や体調管理の徹底、間仕切りの設置といった職員間の感染を防ぐための対策、社内規則やマニュアルの整備等に各社とも力を入れていることが覗えます。

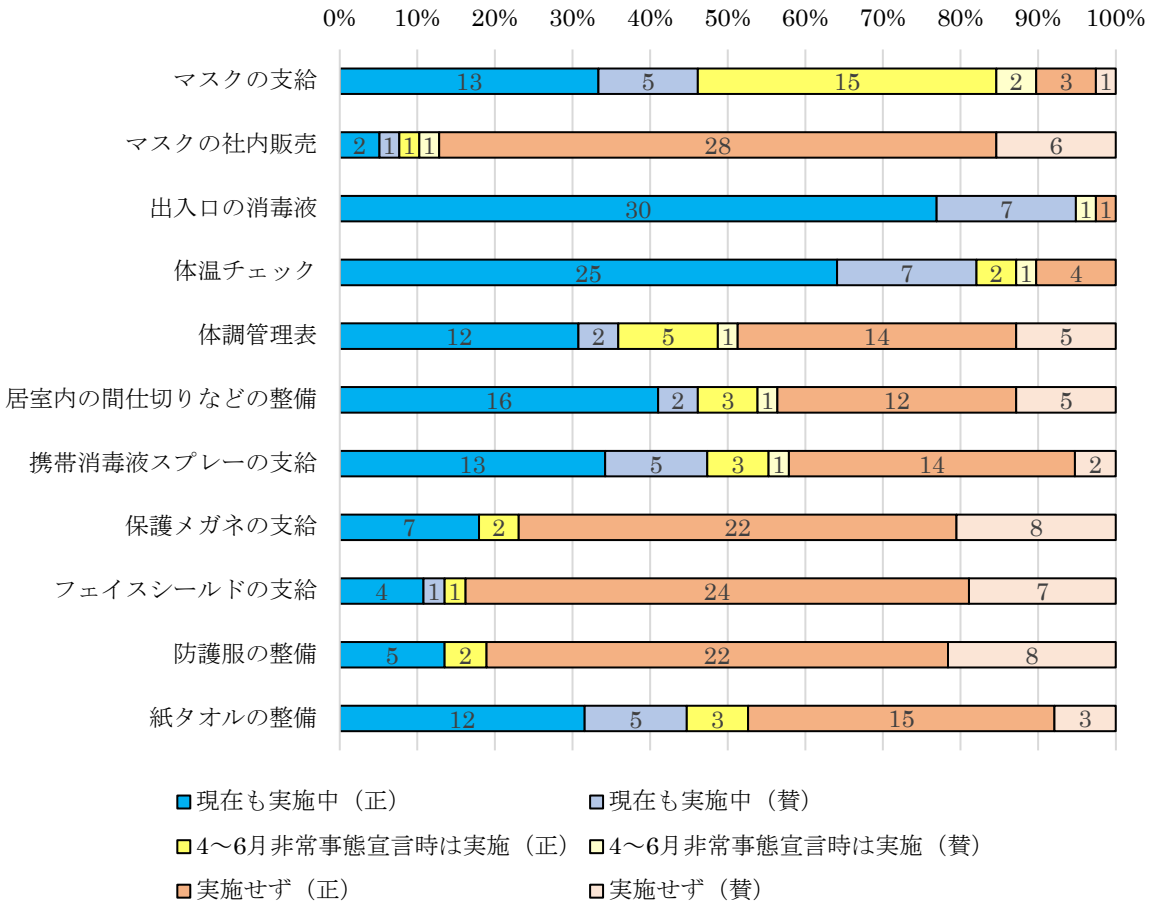
勤務制度に関する具体策（実施率）



職務の行動制限など（実施率）



社内の感染対策（実施率）



関係機関・団体の動き

2021 年 1 月現在で、既に実施または今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです。

○ 首都圏環境計量協議会連絡会

・第 3 回委員会　12 月 10 日　(株)分析センター及び WEB 会議
・研修見学会　中止
・環境計量証明事業団体合同研修会　2 月 17 日　WEB 開催（予定）

○ （一社）神奈川県環境計量協議会

・第 4 回理事会　10 月 13 日　WEB 会議
・応援協定合同会議　11 月 6 日　WEB 会議
・第 5 回理事会　12 月 15 日　WEB 会議

○ （一社）埼玉県環境計量協議会

・第 3 回理事会　10 月 2 日　埼玉県環境検査研究協会（土呂支所）WEB 参加併用
・災害相互応援協定団体　11 月 6 日　WEB 開催
・災害時における石綿モニタリング調査訓練
　12 月 22 日　越谷環境管理事務所周辺
　12 月 23 日　東部環境管理事務所周辺

○ 千葉県環境計量協会

・第 270 回理事会　10 月 23 日　WEB 会議
・第 271 回理事会　11 月 20 日　WEB 会議
・実務者技術フォーラム　11 月 20 日　WEB 会議

○ （一社）日本環境測定分析協会

・環境セミナー全国大会 in 広島(10 月)　来年度に延期
・新任者教育セミナー（本部開催　2 月 3 日、2 月 8 日　WEB 開催（予定）
・新任者教育セミナー（関東支部・東環協共催）　3 月初旬　WEB 開催（予定）

東環協からのお知らせ

○ 2020 年度これからの主要行事予定

・技術研修会　　2 月下旬　WEB 開催（予定）

・新任者教育セミナー　3 月初旬　WEB 開催（予定）　※ 日環協関東支部との共催

○ 事務局からのお知らせ

・現在の会員数（2021年 1月現在）

正 会 員　　61社

賛助会員　　23社　　合　計　　84社

○ 編集後記

「東環協ニュース」第 175 号が無事に完成しましたので皆様にお届けいたします。今回は、新年挨拶、「災害時における石綿モニタリング調査」に関する動き（東京都との締結式、意見交換会、埼玉県と埼環協による合同調査訓練の視察に関する報告）及び東環協の活動に関するアンケート結果の報告をさせて頂きました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い様々なイベントが中止に追い込まれていますが、2 月には「技術研修会」を、3 月には「新任者教育セミナー」をそれぞれ WEB 開催する予定です。

今後も会員の皆様のお役に立てるような企画・運営を心掛けて参りますのでご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

ORGANO

ORGANO Ultrapure Water Technology

2017年（第60回）日刊工業新聞 十大新製品賞 受賞 モノづくり賞

ディスペンサーデザインを一新し、操作性・採水機能を強化！

超純水装置 ピューリック FP-α
純水装置 ピュアライト PR-α

好評のαシリーズがリニューアル。
操作性・採水性を追求したデザインで使いやすさが向上しました。
更に進化したαをぜひ体感下さい。

高い操作性

- 採水アームは手前、上下、左右と可動域を拡大
- 採水部先端の角度を調節することで、容器を置いたまま超純水を泡立てることなく採水可能
- 実験用手袋をつけたまま操作ができる高性能タッチパネル

優れた採水性

- オルガノ独自の校正方法により定量採水の補正機能が向上
- 滴下、定量、連続、フットスイッチ4種の採水機能を装備
- 1滴から最大2L/minまでの流量を手元のダイヤルで設定

多彩な選択性

- 最終フィルター、UVなど要求水質に合わせた装置選択が可能
- 純水タンク容量は4種類、オプションでUVを搭載することでタンク内の菌を抑制
- 採水ディスペンサーは最大3か所に設置可能、採水口に菌対策用UVを搭載可能

お問い合わせ先：株式会社東京科研 機器営業部　関根　　TEL03-5688-7401 / FAX03-3831-9829

PURE WATER SINCE 1946

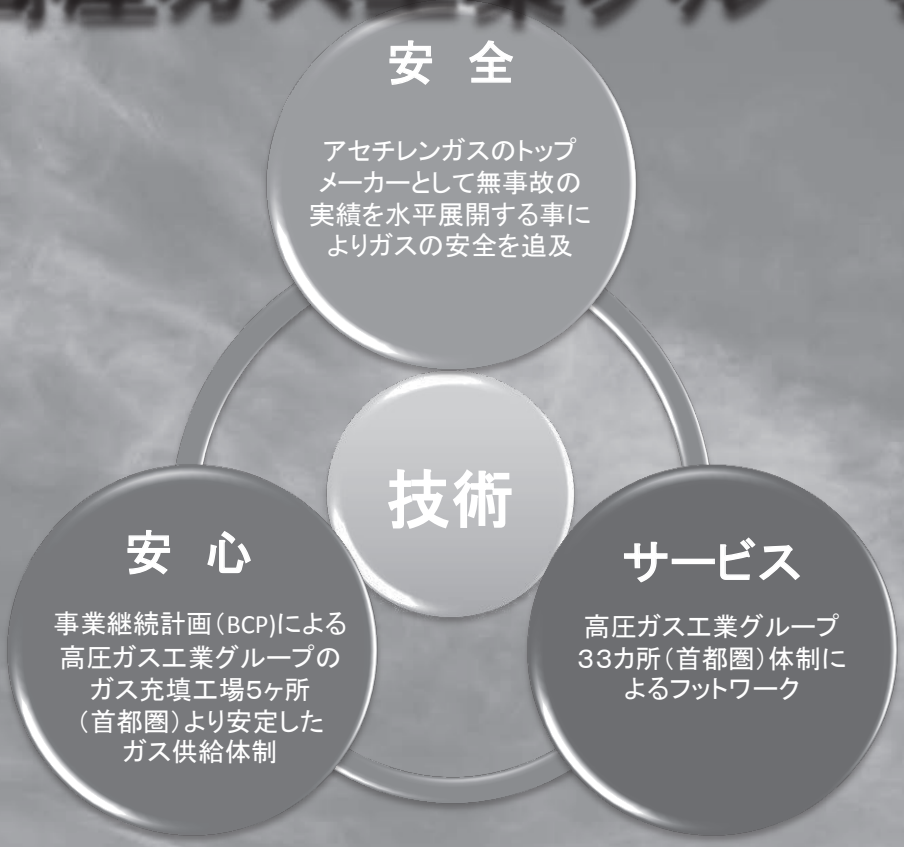
オルガノ株式会社　オルガノ　検索 click!
〒136-8631　東京都江東区新砂1-2-8　　Tel:03-5635-5193
https://www.organo.co.jp/products/

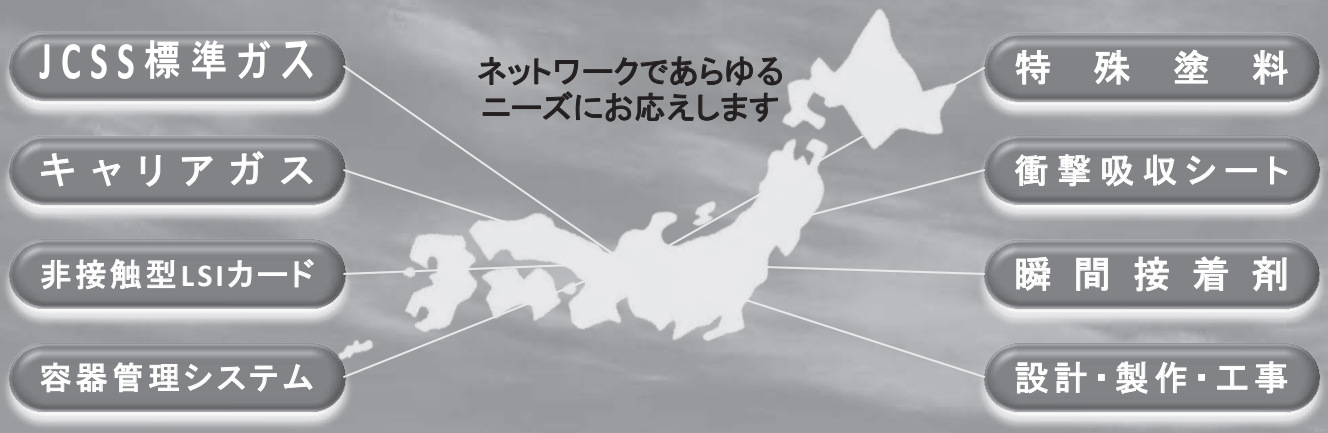
Water Project 今こそ考えよう、みんなの水と未来。
オルガノは Water Project に賛同しています

人と技術と環境の調和

Harmony among People, Technology, and Environment

高圧ガス工業グループ





高圧ガス工業株式会社

本　　社　大阪府大阪市北区中崎西2丁目4番12号　梅田センタービル28階　TEL:06－7711－2570（代）
東京事務所　東京都千代田区内幸町1丁目2番1号　日土地内幸町ビル9階　TEL:03－3595－3128（代）
ホームページ　http://www.koatsugas.co.jp

高速イオンクロマトグラフ

IC-8100

ION CHROMATOGRAPH
IC-8100

先進のセパレーションテクノロジーを継承、さらに進化したニューコンセプトIC･･･ ますますの快適さと信頼性をお届けします。

高速多検体

測定時間5分のハイスループット分析を実現

高速分離カラムとの組み合わせで、陰イオン･陽イオンの測定がそれぞれ5分で終了。
検体の測定時間を大幅に短縮できます。

測定時間10分で臭素酸を含む水道水質基準項目の分析を実現

水道水質分析用の高速高分離カラムと、高感度ポストカラム反応システムを用いる事で、
臭素酸を含む水道水質基準項目が10分以内で測定できます。
従来、複数の条件で行なわれていた分析を一度の測定で行うことが可能です。

高感度

自動交換型ゲルサプレッサー方式で高感度分析が可能

サプレッサーロータリーバルブとサプレッサーゲルを組み合わせた、自動交換型ゲルサプレッサー方式の採用により
安定した高感度連続自動分析が可能です。

高機能拡張性

自動希釈機能付きのオートサンプラーを標準搭載（IC-8100EX）

高濃度イオン含有サンプルなどに対して希釈と注入を連続して行うことができます。

IC-8100シリーズ専用紫外可視吸光光度検出器

フローセルの最適化及び温度変化を最小限に抑えた流路設計により、低ノイズ、低ドリフトのベースラインを実現しています。
当社従来器に比べて感度がおよそ5倍向上しています（亜硝酸イオンのS/Nより算出）。

IC-8100EX専用自動溶離液供給ユニット

新規開発した調製機構により安定的に溶離液を調製し、装置へ供給します。
濃縮溶離液と純水をセットするだけで分析が可能となります。
常に安定した組成の溶離液が供給されるため、経時変化による溶出時間の変動などがなく安定した分析が可能です。

IC-8100シリーズ専用ポストカラム反応システム

イオンクロマトグラフIC-8100EXと紫外可視吸光光度検出器UV-8100との組み合わせにより
水道水質検査法に準拠した臭素酸やシアン等の高感度分析を実現します。

TOSOH
東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社営業部 ☎(03)5427-5180 〒105-8623 東京都港区芝3-8-2
大阪支店バイオサイエンスG ☎(06)6209-1948 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
名古屋支店バイオサイエンスG ☎(052)211-5730 〒460-0008 名古屋市中区栄1-2-7
福岡支店 ☎(092)781-0481 〒810-0001 福岡市中央区天神1-13-2
仙台支店 ☎(022)266-2341 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1
カスタマーサポートセンター ☎(0467)76-5384 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2743-1
バイオサイエンス事業部ホームページ https://www.separations.asia.tosohbioscience.com/

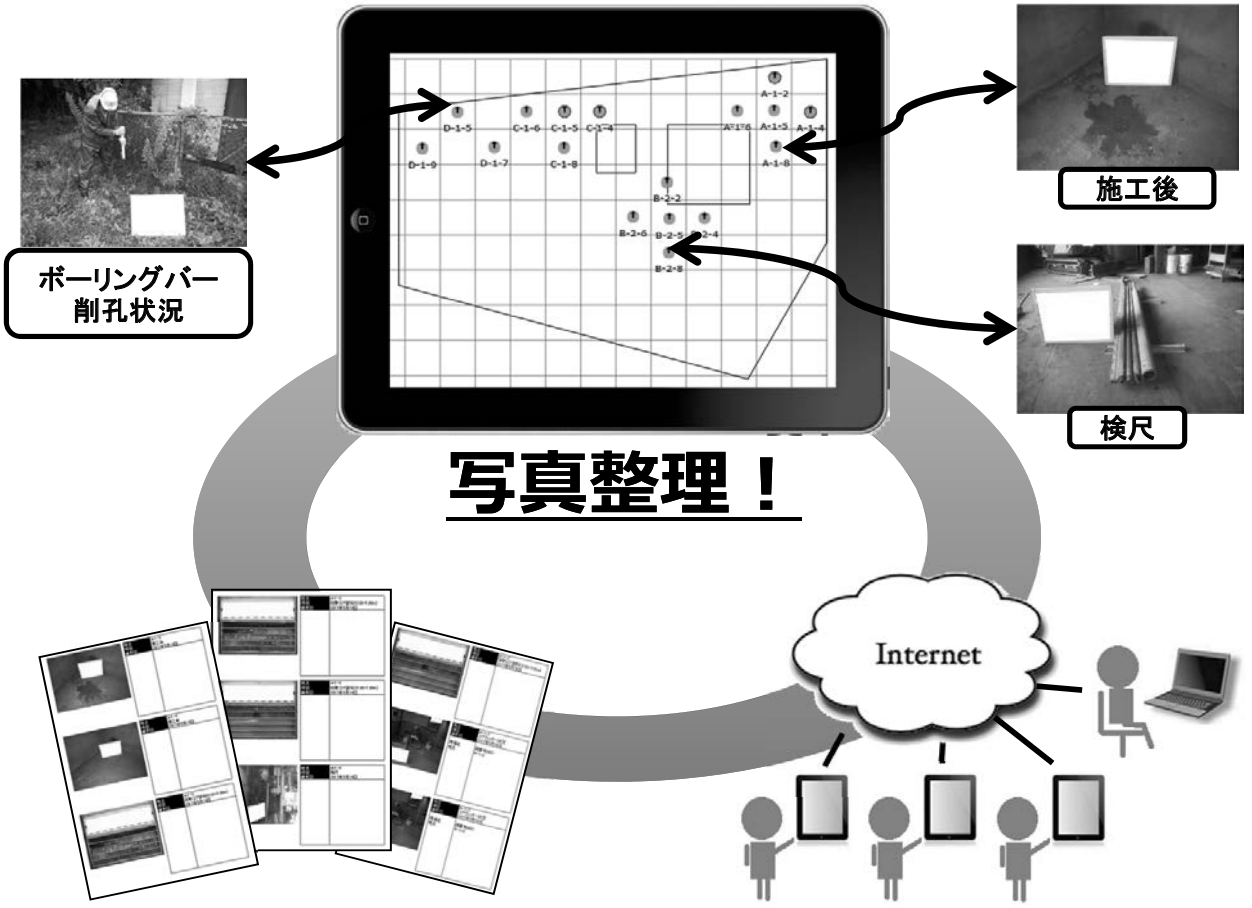
M2007GD.A

写真整理や帳票作成の手間を軽減します！

pictum（ピクタム）

帝人エコ・サイエンス株式会社監修

製品の特長



タブレットを現場で活用すると…？？？

- ☑ 地歴調査の現地踏査写真整理業務、工数８０%削減！
- ☑ 土壌汚染状況調査の写真整理業務、工数５０%削減！
- ☑ 現場管理者が調査進捗状況をリアルタイムに確認可能！
- ☑ 作業員が試料採取済み箇所を瞬時に把握！

pictum　検索

■製品のお問い合わせ

日本コントロールシステム株式会社
http://www.nippon-control-system.co.jp/

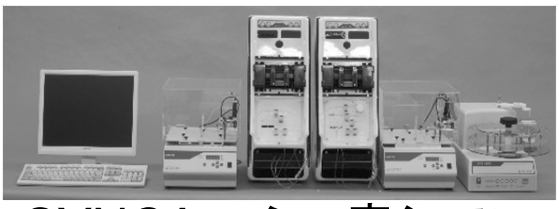
〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿1-20-18 三富ビル新館5F
TEL ： 03-3443-5081（ピクタム担当）
MAIL ： pictum@nippon-control-system.co.jp

ビーエルテックの自動化学分析装置

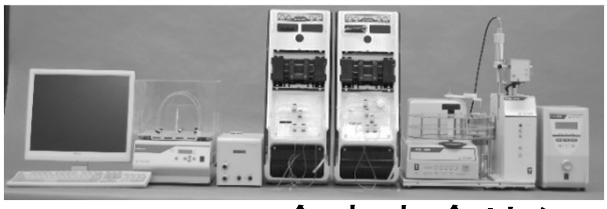
新型オートアナライザー 「SYNCA」

ふっ素　シアン　フェノール類　全窒素　全りん

1　新開発の光学系により測定レンジが広がりました。
2　ディテクターの向上（24ビット）によりデータ量が多く取り出すことができます。
3　**ふっ素、シアン、フェノール類**の蒸留、発色操作も自動で行えます。
4　**全窒素全りん**のオートクレーブ分解、発色操作も自動で行えます。
5　自動洗浄装置装着時、自動プラテンリリースできます。
6　国内生産です。
7　JISK0102対応メソッドです。 1時間20検体測定ができます。
8　原理は、気泡分節型連続流れ分析法（**CFA**)で計量証明機関で多くの実績があります。



SYNCA - ふっ素シアン



SYNCA - 全窒素全りん

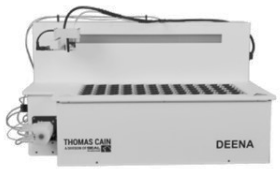
2019年3月20日に
流れ分析水質試験方法（JISK0170）、工場排水試験法（JISK0102）、環告の改正がありました。

全シアンは、告示59号の付表1で
蒸留から発色まで公定法となりました。

JIK0102	項目名	JIK0102	項目名
28.1.3	フェノール類	43.1.3 43.2.6	亜硝酸イオン 硝酸イオン
30.1.4	陰イオン界面活性剤	45.6	全窒素
34.4	ふっ素化合物	46.1.4 46.3.4	りん化合物 全りん
38.5	シアン化合物	65.2.6	クロム（Ⅵ）
42.6	アンモニウムイオン		

全自動酸化分解前処理装置
DEENA

特長
1. 試薬を自動で導入できます。
2. 自動で加熱をします。
3. 内部標準も入れられます（オプション）
4. メスアップも自動で行います。



DEENA60
（50mlバイアル　60本掛け）

DEENAm
（50mlバイアル　30本掛け）

ビーエルテック株式会社　http://www.bl-tec.co.jp
本　社　　〒550-0002　大阪市西区江戸堀1-25-7　江戸堀ヤタニビル2F
TEL：06-6445-2332　FAX：06-6445-2437
東京本社　〒103-0011　東京都中央区日本橋大伝馬町14-15　マツモトビル4F
TEL:03-5847-0252　FAX：03-5847-0255
九州支店　〒811-3311　福津市宮司浜1－16－10－101
TEL:0940-52-7770　※FAXは本社へ

MIKAMI

ＭＩＫＡＭＩ　Co.,　Ltd.

「皆様の分析、研究の手足となります」

試薬・理化学機材総合商社ミカミの武器は

機動力とスピードです

創業 70 年の実績と知恵をぜひ一度お試しください

① ネットでも難しいもの、探して届けます

② 御見積回答翌日までに致します

③試薬、理化学商材、世界の検索網にかけます

営　業　内　容

試薬・医薬品・動物薬品・理化学機器・修理・中古機器

関東化学株式会社 KANTO KAGAKU

TGK STATION

Kenis ケニス株式会社

SANSYO

心をひとつに明日を拓く AS ONE アズワン

MERCK

研究室の総合プランナー
株 式 会 社 ミ カ ミ

〒131-0032　東京都墨田区東向島５－４－１２
TEL：03-3610-0331　FAX：03-3610-0334
E-Mail：info@kkmikami.co.jp
HP：http://www.kkmikami.co.jp

メトローム イオンクロマトグラフ

930 IC本体

940 IC本体

+

858サンプルプロセッサ
＋800ドジーノ（電動ビュレット）

942拡張モジュール

+

ろ過デバイス
限外ろ過

透析デバイス
ダイアリシス

中和・除去デバイス
中和 / 金属除去

濃縮・除去デバイス
濃縮 / カラムスイッチング
/ マトリックス除去

メトローム 自動前処理システム Metrohm Inline Sample Preparation (MISP) は、手作業でおこなっていたイオンクロマトグラフのサンプル前処理を完全自動化できます。

MISP は、メトローム開発したイオン分析のための自動前処理手法です。マトリックスの除去、濃縮、希釈、pH 調整、中和等の作業と時間のかかる作業を完全自動化します。前処理工程を改善するとともに、分析精度の向上にも有効です。

イオンクロマトグラフィの原理からトラブルまでご隠居さん達が楽しく解説する
大人気コラム「ご隠居達のIC四方山話（よもやまばなし）」。ウェブサイトに掲載中！

IC 四方山話

Metrohm

デモやサンプルテストもお気軽にお問い合せください。
e-mailでのお問い合せ：metrohm.jp@metrohm.jp
本社　〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町30-1 タマビル日本橋箱崎８階　TEL：03-5642-6146（TI部）FAX：03-5642-6142
大阪支店　〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町３-1-9 淡路町ダイビル５階502C　TEL：06-6232-2311　FAX：06-6232-2312
URL　https://www.metrohm.com/ja-jp/

水銀規制に関する対応はできていますか？

サスティナビリティに貢献

超純水・純水製造装置

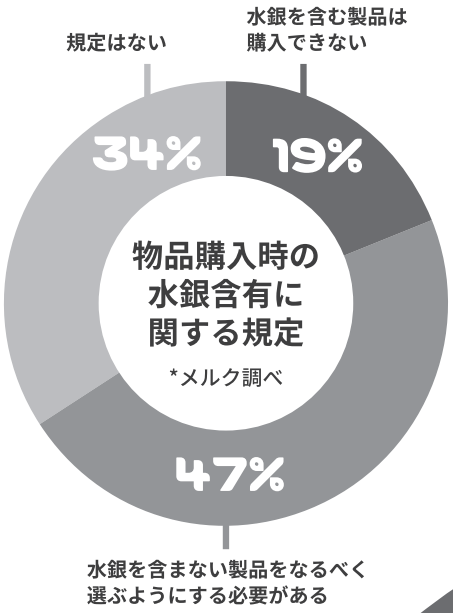
Milli-Q IQ 7003/05/10/15

純水製造装置

Milli-Q IX 7003/05/10/15

水銀フリーUVランプ

- 水銀に関する規制に対応
- 19%の施設（民間企業・大学・公的研究機関）では水銀を含む製品は購入できず、47%の施設では水銀を含まない製品を選ぶようにする対応が取られています。



最大30%省エネ

- 最大30%のエネルギー削減*（Milli-Q IX 7003/05/10/15）（製品ライフサイクル全体で500 kWh以上）

使用水量削減

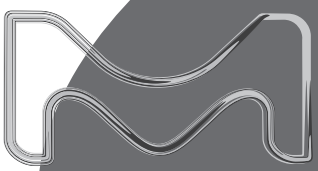
- RO膜洗浄水量を80%削減*
- RO排水リサイクルにより、使用水量の大幅削減

化学物質の使用・廃棄ゼロ

- イオン交換樹脂再生のための危険な化学薬品による再生と廃棄物を排除。Elix® EDIテクノロジーは、微弱な電気によりイオン交換樹脂を再生。

*前モデルElixとの比較

メルク株式会社
ライフサイエンス ラボウォーター事業部
〒 153-8927 東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー 5F
製品の最新情報はこちら www.merckmillipore.com/LW
On-Line:www.merckmillipore.jp/jpts
Tel: 03-4531-3939 Fax: 03-5434-4875



The life science business of Merck operates as MilliporeSigma in the U.S. and Canada.

Milli-Q®
Lab Water Solutions